

鹿児島市喜入瀬々串町で確認されたマンゲースについて

中間 弘* ・ 小溝 克己**

On the Mongoose in Kiire-sesekushi-cho Kagoshima City, Kagoshima Prefecture

Hiromu NAKAMA and Katsuki KOMIZO

はじめに

マンゲースはアラビア半島からインド、マレー半島の熱帯地域を原産とするマンゲース科の哺乳類で、体色は灰色または褐色である。世界に18属39種が知られており、このうちエジプトマンゲース属のジャワマンゲースが、1910年に沖縄に、1970年代末に奄美大島に移入された。本来、両島にマンゲースが移入されたのは毒蛇のハブに対する対策の1つであり、直接的にハブを食べてくれる効果と、ハブの餌となっているネズミを食べることで間接的にハブの個体数を減少させる効果を期待してのことであった。その後島内で個体数が急激に増えたが、マンゲースとハブの闘いを見せる興行目的以外では他地域へ移入された形跡は見られない。

しかし、2007年～2008年にかけて鹿児島市喜入瀬々串町でマンゲース斃死体1体を収集した他、複数回目撃しているの、ここに報告する。

1 鹿児島市喜入瀬々串町でのマンゲース確認

筆者の一人である小溝は2006年10月、自宅のある南九州市穎娃町から勤務先の県立錦江湾高等学校への通勤途中、鹿児島市喜入瀬々串町の広域農道において道路を横切る小動物を見かけた。テンとイタチの中間位の大きさ、先細りに見える長い尾、焦げ茶色の毛色等から「マンゲース」と判断したが、このときは「本土にマンゲースなどいるわけがない」と考え直した。次に目撃したのは2007年の春で、時間にして1秒程度ではあったが、やはりマンゲースに見えた。8年間(1997～2004)奄美大島に在住した経験からやはりマンゲースであると確信し、日時を書き留めたが、メモ用紙を紛失し詳細な日時は不明である。これ以来いつでも写真を撮れるように、通勤には必ずカメラを持参した。

そして2007年8月25日、道路上で斃死体を発見・撮影し、マンゲースであることを確認した。

【斃死体収集時の状況】

収集した斃死体は体長51cm、頭胴長27cmで毛並みは良く、栄養状態は良好であったと推測される。死因は車との衝突によると思われる、収集時には胴体の中央部を境にして前半部と後半部が180°捻れた状態で、タイヤによるものと思われる擦過痕が認められた。また、肛門周辺の外皮が開裂・挫滅しており、外見から性別は判定できなかった。その日の朝に死亡したものと思われたが、盛夏のことであり、発見時すでに腐敗臭がしていた。なお、この斃死体は現在鹿児島県立博物館で冷凍保管中である。

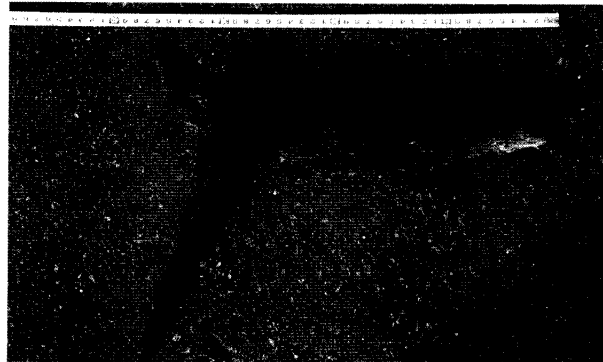


写真 マンゲース収集時の状況

【目撃・収集の記録】

斃死体収集後も道路を横切るマンゲースを5回目撃した。目撃・収集の記録は表のとおりである。

表 マンゲース目撃・収集の記録

| 年 | 日付 | 時刻 | 数 | 備考 |
|------|------|-------|---|----------------|
| 2006 | 10月 | 朝 | 1 | 目撃(詳細な日付・時刻不明) |
| 2007 | ? | 朝 | 1 | 目撃(詳細な日付・時刻不明) |
| 2007 | 8/25 | 7:55 | 1 | 斃死体収集 |
| 〃 | 9/17 | 8:50 | 1 | 目撃 |
| 2008 | 4/01 | 10:15 | 1 | 目撃 |
| 〃 | 4/12 | 9:20 | 1 | 目撃 |
| 〃 | 5/12 | 8:00 | 1 | 目撃 |
| 〃 | 5/26 | 7:15 | 1 | 目撃 |

* 〒892-0853 鹿児島県鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

** 〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町4047 鹿児島県立錦江湾高等学校

目撃したのは全て午前中の早い時間であるが、これは自宅から勤務先への主に出勤途中に目撃しているためであり、その時間帯に主に活動しているということを表しているわけではない。しかし、明るい時間帯にも活動していることはうかがえる。なお、暗くなってからの帰路では、マングースを目撃したことはない。

目撃した際は写真撮影を試みているが、すぐに道路脇の草むらに逃げ込んでしまい、一度も撮影できていない。

2008年の5月26日以降、それまでと同じように注意しているが、全く目撃することがなくなった。

【マングースが確認された場所】

マングースが現れたのはいずれも国道226号線に並行して走る標高70m前後の農道上で、海沿いにある喜入瀬々串町や喜入中名町の集落からほど遠くないところである。農道は、海岸からすぐに山が迫り緩斜面に耕作地が広がる立地を縫うように通っており、片側1車線の舗装道路で交通量は少ない。農道の山側はほとんどがスギ植林で、海側には広葉樹林とスギ植林が混在する。近隣に動物を扱う施設・ペットショップ等はないことから、今回目撃・収集したマングースがこうした施設からの脱出個体とは考えにくい。

2 今後の課題

奄美大島で見られるマングースはジャワマングースである。ジャワマングースは、以前は食肉目ジャコウネコ科に分類されていたが、現在はネコ目マングース科に分類が変更されている。体はオスが大きく、頭胴長がオス30～38cm、メス29～33cm、全長がオス51～66cm、メス48～57cmほどである。食性は雑食性である。巨(2008)が奄美大島で行ったマングース駆除個体の消化管内容物の調査では、マダラコオロギなどの昆虫類やオオゲジなどの節足動物、アマミハナサキガエルなどの両生類、キノボリトカゲなどの爬虫類、シロハラなどの鳥類、クマネズミなどの哺乳類を多く捕食していることが分かる。その他、国の天然記念物であるアマミノクロウサギやアマミトゲネズミ、ケナガネズミ、アカヒゲなども含まれ、奄美大島に生息する希少生物に与える影響は多大であるといえる。

鹿児島市喜入瀬々串町のマングースは2008年の夏以降は目撃もされなくなっており、他地へ移動したか個体群が死滅したかは判断できない。ペットとして飼育していたものが脱出したことが疑われる事例であり、今後増殖する可能性については未知数であ

るが、沖縄や奄美大島で自然界に多大な影響を与えていることが報じられている種でありながら、こうして奄美大島や沖縄以外の野外で見られること自体が非常に危険なことである。市民・動物取扱業者・行政・教育機関などが連携して、さらに外来生物の危険性を広く周知する必要がある。

今後も周辺地域で調査を継続するとともに、地域住民や関係諸機関と連携・協力しての情報収集が必要である。今後さらに確認される場合には、生態系に与える影響の大きさを考慮すると、拡散・増殖を抑制する対策を講じる必要もあるであろう。



図 マングースの目撃・収集地点
(国土地理院2万5千分の1地形図「喜入」使用)

参考文献

巨悠哉, 2008. 外来種ジャワマングースが奄美大島の在来生物群集に及ぼす影響とその機構の解明. 東京大学大学院農学生命科学研究科博士論文
日高敏隆監修, 伊沢紘生, 粕谷俊雄, 川道武男編, 1996. 日本動物大百科 第2巻 哺乳類II. 平凡社